



創樹

88

2023年10月20日発行

創樹会
SOUJUKAI

私が障害福祉の世界に入ったのは今から二十一年前のことです。福山六方学園の初代園長であり実父である田中了諦から、創樹会に対する想いを学んでいこうとしていた矢先、田中了諦が他界しました。当時は、私自身が大きな悲しみの渦中にあり無我夢中の日々であったため、前理事長の想いに想像を巡らせる余裕がありませんでした。現職の理事長が他界するということがどのようなことであり、その只中にある統括園長として利用者さんをはじめ、ご家族や職員などに対して、それまで以上に重い責任を担うことがどのようなことなのか。今ならば、前理事長のご苦勞の一端を理解することもできます。そのような状況にあって、あるときはご自身が運転される車に私を乗せて方々の関係法人や施設へ、また数々の会議や出張先にも同行させてくださいました。田中了諦の想いや広く深い福祉の仕事がどのようなものかを、様々な場面を通じて教えてくださったのです。

去る八月七日、六十年という長きにわたり障害福祉に身を捧げてこられた当法人の西山堅太郎前理事長がお亡くなりになりました。

昨年の九月三十日に理事長の職を退任され、その後、療養に専念されておられたのですが、ご親族に時折伺う前理事長の様子に安心していただけもあり、突然飛び込んできた訃報の衝撃と喪失感はまだに忘れられません。

輝く個性を大切にする福祉を受け継ぐ

前理事長はアート活動にも深い造詣を持ち、日頃より「書きなぐられた一本の線、一つの曲線、その中に込められた想いを感じなさい」「作品が輝けば人も輝く」など多くの言葉を通じて、アートの魅力を伝えてくださいました。そして、「スポットライトの当たらないところにスポットライトを」という想いから、表現の場として鞆の津ミュージアムを設立され、現在も多くの作品たちとアーティストたちが輝き続けています。また、その活動を支える職員の自主性を尊重し、大抵のことは「やっつらい」と仰っておられたように記憶しています。その大きく自由な発想を通じ、創樹会という法人の枠を飛び越えて、様々な方々との大切なつながりが生まれました。

このたび、そのような活動の功績が認められて広島県知的障害者福祉協会様より推薦いただき、西山前理事長は旭日単光章を授章されました。お元気でいらしたなら、きっと「みんなで一杯やろうやー」と賑やかに盃を酌み交わしておられたに違いないでしょう。

最後になりますが、私たちは前理事長から学んだ福祉への想いを引き継ぎ、関係の皆様方のご協力も仰ぎながら、創樹会のバトンを繋いでいくよう努めて参ります。前理事長のこれまでのご厚情に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

社会福祉法人創樹会 理事長 田中創



ぶちええね

職員インタビュー

さわらび／藤田 美空

入職のきっかけ

福山六方学園で実習を受けたことです。その際に利用者さんに関わることがとても楽しかったので、この仕事に興味を持ちました。また、先輩職員の支援を見ていて、私も利用者さんのことを考えて楽しく支援が出来る人になりたいと思い、入職を決めました。

仕事のやりがい

さわらびに配属になった時は、成人の利用者さんと関わったことがなかったので不安でいっぱいでした。ですが、一緒に日課を過ごしていく中であいさつを返して下さるようになって、利用者さんの好きなことを知れるようになってきたことがとても楽しくなりました。そして、その利用者さんが好きなことや得意なことを楽しめるように日課を組んだり、行事を考えたりすることがやりがい

だと思っています。

大切にしていること

自分自身も日課や行事を楽しむことです。利用者さんが楽しんで日課を行うためには雰囲気大切だと思っし、職員も楽しんで活動しないと楽しい雰囲気はできないと思うからです。

これから挑戦したいこと

利用者さんと行事やイベントを考えたり、計画していけたらいいなと思っています。コロナ禍前は月に一回おやつを自分たちで作っていたそうなので、コロナ禍前に行っていた日課も少しずつできるようになればと思います。また、作品展委員会に入っているので、利用者さんと一緒に作品を楽しく創作して、作品展に出展していきたいです。

ありがとうございます

ございました

2023年7月1日～2023年9月30日

*お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。(敬称略・順不同)
*保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

ご寄贈・ボランティア訪問

○ご寄付 ・関係者2名 ○ボランティア ・枝広隆文、枝広陽子

実習生

○保育士	7月1日～10日間	福山平成大学	2名
	8月9日～10日間	広島文教大学	2名
	8月19日～10日間	岡山短期大学	2名
	8月29日～12日間	安田女子短期大学	4名
	9月13日～10日間	広島文教大学	1名

今後の予定

福山六方学園
12月10日(日) 一日強歩
あゆみ苑成人寮
12月10日(日) 一日強歩



あとかき

障害者福祉に身を捧げられた西山前理事長がお亡くなりになりました。様々な生のあり方が尊重される世の中や文化をみずえる前理事長がこれまでに育ててきたケアの「樹」を、さらに豊かなものにしていただければと想いをあらたにしています。(編集スタッフ一同)

事業所一覧

- 福山六方学園(障害児入所施設)(短期入所)(日中一時支援)
- あゆみ苑成人寮(障害者支援施設)(生活介護)(短期入所)(日中一時支援)
- サポートセンターひびきの家(共同生活援助)
- サポートセンター友の家(共同生活援助)
- サポートセンターかなで(日中サービス支援型共同生活援助)(短期入所)
- さわらび(生活介護)
- ヘルパーステーションあしすと(居宅介護・行動援護)(移動支援)
- ONE-すてっぷ(児童発達支援)(放課後等デイサービス)(日中一時支援)(障がい児療育等支援)
- ふあんたす(放課後等デイサービス)
- 相談支援センター風ぐるま(一般相談支援)(特定相談支援)(障がい児相談支援)
- さくら(就労継続支援B型)(生活介護)
- 鞆の津ミュージアム(ギャラリー)

発行日：2023年10月20日

発行元：社会福祉法人 創樹会 〒720-0832 広島県福山市水呑町7187番地1

TEL:084-956-0255 FAX:084-956-5749

swc@soujukai-fukuroku.or.jp <https://soujukai-fukuroku.or.jp>

創樹会Instagram



創樹会Webサイト

■題字：田中 盧雪
■誌面イラスト・文字：内海 卓雄、佐々木 和徳
藤井 正彦、藤井 恵子



work and life balance

ワークライフバランスの 充実にむけて

創樹会では現在、新卒・中途の方の採用活動について積極的に取り組んでいます。様々な業界で人手不足が深刻な問題となっていますが、当法人も例外ではなく、人材確保は長きにわたり法人の取組み課題として挙げられてきました。採用活動に関わる中で、学生さんや求職者の方に「興味を持っていただくこと」「法人の魅力を伝えること」の難しさを痛感しています。そこで、働く場所としての創樹会の魅力をお伝えできたらと思い、今回はワークライフバランスの充実に向けた取り組みについて3つご紹介します。

1 希望休や有給休暇などの 休みを取得しやすい！

創樹会では、希望休はもとより有給休暇制度も充実しており、半日単位・1時間単位での有給休暇も取得できます。令和4年度は全職員平均で1人当たり14.3日の有給休暇を取得しており、取得率は75.5%となりました。今後も継続的かつ満遍なく有給休暇が取得できるよう、取り組んでいきたいと思っています。



2 万が一に備えた貯蓄有給休暇制度

通常の有給休暇は付与後1年しか繰り越しができませんが、当法人では付与から2年経過した有給休暇を「貯蓄有給」として繰り越しできる法人独自の有給休暇制度を導入しています。貯蓄有給休暇は、けがや病気などで一定期間以上の療養が必要な時に使用でき、その期間の給与も保証されます。病気やケガはないに越したことはありませんが、万が一の時に安心できる休暇制度です。

3 産休・育休取得率100%達成！ (令和4年度実績)

女性職員の産休・育休取得はもちろんのこと、令和4年10月から取得促進が義務化されている男性職員の育休取得についても積極的に取り組んでいます。令和4年度は女性職員5名・男性職員1名が対象となりましたが、全員が休暇を取得することができ、100%の取得率となりました。



今後も職員みなさんに仕事とプライベートどちらも大切に過ごしていただけるよう、法人としてワークライフバランスの充実に向けて取り組んでいきます。

事務局 實政 友貴

COLUMN

広島県東部地区親善スポーツ大会に 参加しました

9月17日、竹ヶ端運動公園で広島県東部地区親善スポーツ大会が開催されました。あゆみ苑成人寮からは9名、福山六方学園からは4名の子ども達が参加。炎天下、50m走や100m走・ソフトボール投げ・幅跳びの各競技種目で皆入賞してメダルを貰い、大喜びでした。最後には、400mリレーに参加し見事一位入賞。皆さん、とてもがんばりました。



鞆の津ミュージアム
T O M O N O T S U M U S E U M

住 所 | 〒720-0201 福山市鞆町鞆271-1
開館時間 | 10:00-17:00(月火休館)入場無料
電話番号 | 084-970-5380
Webサイト | <https://abtm.jp>

展覧会情報

Exhibition information

企画展《日曜の制作学》開幕！

8月20日(日)、鞆の津ミュージアムの企画展『日曜の制作学』が開幕しました。本展は、職業的な作家ではないつくり手の方々の人生を支える趣味や余暇の営みから生まれた創作物など、〈日曜〉をめぐる様々な表現をお伝えするものです。絵画・手編みのセーター・切り絵・空想の休日をめぐるひそかな表現・昭和初期ごろまでに生み出された無名の庶民による私的な作品の数々。今回、〈日曜〉という言葉には、休日・趣味・DIY・庶民・素人・無名性・セルフケア意味を含めたのですが、好きなことに没頭しながら何かをつくるのが与えてくれる生きる力のかたちを、この機会にぜひどうぞご覧ください。

会 期:2023年8月20日(日)～12月30日(土) 10:00-17:00



イベントレポート

第29回〈陽と風と...〉展開催

7月19日～23日にかけて、展覧会『陽と風と...』が開催されました。「とっておきの芸術祭 in ふくやま」の一環として、ふくやま美術館のギャラリー・ホールを会場に行われる本展も今回で29回目。備後地域の福祉施設に通われている方々の作品を中心に、地元の作家さんやこども園の子供たちにも出品いただきたくなど、「障害の有無を問わない」のが本展の特徴です。毎年恒例の招待作家は、創樹会のさわらびで活動する村上多美さん。織物の糸くずを自ら結びつけたひもを丸めて重ねていくことで巨大な玉をつくれるのですが、そこにかけられた途方もない時間と集中力に圧倒されるばかりでした。



イベントレポート

出張ワークショップ開催 in 島根

島根県障がい者文化芸術活動支援センター「アートベースしまねいろ」さんからお声がけいただき、《伝わる展示のつくり方・立体展示編》と題したレクチャーとワークショップをするため、9月16日に「浜田市世界こども美術館」に出向きました。

展示のワークショップ

は昨年に続いての2回目で、今回は平面作品を扱う時のお話でしたが、今回は立体作品の展示にまつわる内容。空間づくりのコツやあると便利な道具のこと、キャプションをつくる時に意識することなど僭越ながらあれこれとお伝えし、参加者の皆さんで実際に展示空間をつくってみる体験もしていただきました。うまくできたかわかりませんが、「伝える」を楽しむ際のお手伝いがわずかでできていればと思います。

鞆の津ミュージアム 津口 在五(P2の記事全て)



かなで

スイカ割りとかき氷

月に一度行うことにしているレクリエーションの日にスイカ割りやかき氷づくりをしました。スイカ割りでは皆さんにスイカを叩いてもらい、その後、豪快に食べておられました。かき氷ではスタッフが氷を削り、利用者の皆さんには果物缶やナタデココをトッピングしてもらいました。暑い日が続いたためか、皆さんおかわりをされていました。外に出るのレクリエーションが中々できませんが、ホーム内でも十分にリフレッシュできました。

肥田 篤司



ふぁんたす

水辺公園

夏休みの外出では、恒例の帝釈峡水辺公園に行き、魚のつかみ取りという貴重な体験をしました。長細い板を持って釣り堀池の中にGO! 友だちと協力して板で魚を端に追い込み、素早くキャッチ! 何度も挑戦してキャッチできた時の表情は何とも格別でした。その後は内臓の処理にも挑戦! 釣りたての魚を炭火で焼いて食べました。子どもたちの笑顔に、実体験を積むことをこれからも大切にしたいと改めて感じた夏のひとコマでした。

小林 倫子



児童発達支援 すてっぷ

プール

この夏は猛暑日が続き、「早くプールに入ろう!」と期待に胸を膨らませ登園する子どもたち。早速プールに入ると、腹ばいになりワニさん歩きをしたり、先生に手や脇を持ってもらいグルグル洗濯機をしたりと、思い思いに楽しむ姿。活動の締めくくりには、2チームに分かれてバシャバシャ対決! 水の心地良さを全身で感じ、「楽しい・面白い・もう一回」をたっぷり体験したことで、心も体もグッと大きくなった子どもたちです。

秋山 咲



ONE-すてっぷ

夏休み

8月に開催した夏祭りでは、人気キャラの玉入れ・ヨーヨー釣り・射的を行いました。投げる距離や的の大きさを調整し、子ども達に合った難易度で挑戦。的のカップを豪快に撃ち倒した瞬間は爽快! 当たり外れに一喜一憂しながら、最後は「できた!」と笑顔いっぱい! 日々葛藤し成長している子供たち。その頑張りを共有し、明日への糧となることを願っています。

川本 直弘



さわらび

夏祭り

感染症対策で中々行事を行えないことが続きましたが、今年の夏祭りはグループを分けて行うことはせず、みんなで一緒に実施する形を取りました。日にちが決まり、次々と頼もしい意見が飛び交います。利用者さんと一緒に、出し物・景品・工夫を話し合いました。時間を見つけては準備を行い迎えた当日、「嬉しい」「楽しい」「楽しい」感情が多く見られ、一体感を感じることができました。こんな時間を今後もみんなで共有していきます。

山崎 憲一



あゆみ苑成人寮

昼食外出

今年で60歳を迎える利用者さんの還暦祝いと、入院生活から帰ってこられた利用者さんの復帰祝いとして、8月10日にホテル「鷗風亭」へ行き、昼食を食べました。とても天気の良い日で、窓から見える鞆の浦もとても綺麗でした。いつもの昼食とは違った雰囲気、少し緊張されながらも、還暦のちゃんちゃんこを着て記念撮影もし、「おめでとう」と伝え、とても喜ばれていました。皆さん終始笑顔で楽しい思い出になりました。

山下 和朗



さくら

親睦ボウリング大会

8月25日、新型コロナウイルスの影響で約3年半ぶりに開催された「福山卸センター親睦ボウリング大会」に、さくらから4名の職員が参加しました。卸町にあるたくさんの企業が参加する中で、さくらが団体・個人戦で優勝することができました。

次回は来年の2月に開催される予定なので、2連覇を目指して頑張りたいと思います。また、地域の方々との交流も深めて参ります。

荒木 郁海



福山六方学園

個別外出

夏休みの個別外出では、子ども達がそれぞれ行きたい場所を決め、職員と一緒に計画を立てました。映画を観たり、買い物をしたり、公園で遊んだり、楽しい時間を過ごすことができました。昼食も子ども達が行きたいお店を決め、好きな物を食べました。ハンバーガーやピザなど美味しい物をたくさん食べることができ、笑顔いっぱいの子供達でした。これからも、子ども達が楽しめる活動を計画していきます。

佐々木 かれん



学園の日々



夏

創樹会 インターンシップ

地元の学生さんに向けた
職場体験の受け入れを行っています!



利用者さんの刺繍作品を
素材に雑貨を製作中

👉 インタールの学生さんを 受け入れました

すてっぷ・ONE- すてっぷ・ふあんたす
さわらび
鞆の津ミュージアム

8月21日～25日に行った〈BINGO インターンシップ〉では、合わせて4名(児童通所施設の「すてっぷ」「ONE-すてっぷ」「ふあんたす」で2名、成人通所施設「さわらび」で2名)の学生さんを受け入れたのち、8月28日からの〈尾道市立大インターンシップ〉では、尾道市立大の学生さん1名を受け入れました。

なかでも尾道大のインターンでは昨年同様、利用者さんの作品を素材につかった雑貨づくりを体験。前半3日間はさわらび内のきらりグループにて生活介護の補助や創作支援、後半の2日間は鞆の津ミュージアム内で実際に雑貨制作をしたり、学生さんの興味にあわせて展示造作のレクチャーなどを行いました。学生さんには創作支援の中で気になった作品を選んでもらい自ら企画した作品に仕立てていただいたのですが、今回制作したのは、とうもろこしをかたどった刺繍作品をダイカットして縫製した一点物のしおり・フェルトの切り絵をあしらったブックカバー・刺繍を素材にしたヘアゴムの3種類。丁寧な手作業でかわいい雑貨が完成しました。今回の体験が、生活支援にとどまらない福祉職の幅広さとたのしさを実感するきっかけになればと思います。

👉 チャレンジウィーク到来!

鞆の津ミュージアム

「チャレンジウィーク」の時期となった7月5日～7日にかけて、今年も鞆の津ミュージアムでは、地元・鞆の浦学園8年生の生徒さん3名の職場体験を受け入れました。

毎年、趣向を変えて実施しているのですが、初日は例年通りに、創樹会の利用者さんたちがつくった作品の額装と壁への展示作業体験からスタート。それが終わると、今年は展覧会図録の編集作業を体験してもらおうということで、「zine /ジン」(手作りの小冊子)をつくることに。「推し」がテーマの冊子という想定のもと、タイトルは〈OSHIKATSU〉。特集は「V tuber」となりました。2日目と最終日を使い、台割から原稿作成、パソコンソフトを使った画像加工やレイアウトまでを行い、巻頭言もみんなで作ったものを掲載。そんなふうにして、A3を折り畳んだ手のひらサイズの全8ページの本が完成しました。

今回の体験が、何かある表現を「伝える」ことの楽しさや難しさを感じる機会になっていればよいなと思います。

鞆の津ミュージアム 津口 在五(P7の記事全て)



レーザー水平器を使って
作品の飾り具合を調整中



自分たちで
つくりあげたzineを
眺める生徒さんたち

完成した冊子
『OSHIKATSU』の表紙。
インターネットを想像させる
電波マークをあしらいました



👉 いのちを想う



ひびきの家 栗田 寿樹

今年度は当日朝から雨が降り、あゆみ苑の玄関前で「いのちの日の集い」を行ないました。平成十年の事故から二十五年の年が経ち、私も含めて当時の出来事を知らない職員が多くなりました。そのため、当時の資料の読み合わせなどをして職員間できちんと共有していく必要があります。不慮の事故や病気で亡くなられた方々、西山前理事長の思いも受け継ぎながら、今後も八月十一日の集いを行ってまいります。



さくら 山村 康嗣

いのちの日の式典の後、あゆみ苑とさわらびの二班に分かれて救命救急講習を行いました。AEDを使用しての心肺蘇生法の受講で「技術などをアップデートできて良かった」との感想や、「実践することと思いついて良かった」といった声も聞かれ、充実した講習となりました。貴重な時間を割いて夏季セミナーにご協力頂きました福山南消防署の皆様には、職員一同深くお礼申し上げます。



あゆみ苑成人寮 男子棟
山下 和朗

八月二十九日、夜間退避訓練を行いました。二十時すぎにあゆみ苑相談室に集合し、まず消火器の使い方の訓練をしました。消火器の使用手順は、「ピンを抜き」「ノズルを火に向け」「距離を取り」「押す」ということで、頭文字を取り「ピンキオ」と覚えるそうです。その後、各棟にこっそり入り、避難訓練を開始しました。実際に非常ベルを鳴らし、「火事だ」と大声で叫びながら、利用者さんの避難誘導をしました。実際にしてみなければわからないことも多く、大変勉強になりました。

あゆみ苑成人寮 夜間退避訓練



あゆみ苑成人寮 女子棟
金口 歩

八月三十一日、水呑交流館に講師の方を招き、「伝え方・伝わり方」についての講演会を行いました。グループ演習もあり、和やかな雰囲気となりました。参加した主任からは、「伝える」だけでなく「伝える事」が大切だということがわかりました」という感想が多く聞かれました。今後も、聞いてみたい・学んでみたいという研修を企画していきたいと思います。

主任研修

スタッフの
まなび